

活性化プロジェクト報告

2022年2月20日

1. 活性化プロジェクトチーム

- (1) 目的：加盟チーム減少の中、連盟運営の活性化への課題抽出とその対策を検討する。
- (2) 担当者：寺西指導普及部長 岩本競技部長 一ノ谷指導普及副部長
小山総務副部長 小林協議副部長 小山審判副部長

2. 2021年度活動内容

- (1) PT会議の実施
7月～11月 月1回のZoomによる会議
- (2) 各市町村ソフトバレーボール連盟における活動内容等の調査の実施
- (3) 連盟活性化方策（案）の作成 2020年2月理事会にて承認された内容も含む
 - ①本連盟への加盟について
 - ②本連盟主催大会への参加チーム数の減少傾向について
 - ③本連盟主催大会の在り方について
 - ④府内市町村のソフトバレーボール団体（連盟・協会）との連携について
 - ⑤ソフトバレーボール愛好者に対する本連盟の魅力づくり方策について

3. 各市町村ソフトバレーボール連盟における活動内容等の調査の実施

- (1) 実施時期等 2021年8月実施 43市町村のうち35市町村より回答
- (2) 結果概要（未回答の町村もあるが便宜上「市町村」として記載する）
 - ①連盟の有無及び加盟チーム数
⇒10市町村 198チーム
 - ②課題認識
 - ・コロナ禍で2年間大会中止となっており再開の見通しが立たない
 - ・新規登録チームの減少 高齢化
 - ・試合当日の試合数について
 - ・競技人口、愛好者が少ない
 - ・競技人口・チームの増加による審判技術の均一化 等
 - ③府連盟の活動内容等の把握 ⇒ 13市町村
 - ・市町村連盟主催の講習会等への講師派遣の周知
⇒7市町村が把握。活用は4市町村
 - ・貴連盟から加盟チームに対して、当該交流大会や講習会への参加や推薦
⇒12市町村
 - ④考察
 - ・市町村連盟においても、登録チームの減少や高齢化などの課題もある中で域内の普及活動

に取り組んでいる状況が把握できた。

- ・OSVFの活動内容の把握については1/3の13市町にとどまっていることがわかった。連盟としての情報発信の仕組み等の活性化方策の検討が必要。

4. 連盟活性化方策（案）の作成

（1）本連盟への加盟について

- ・加盟タイプの区分及び区分別の加盟料については、前プロジェクト会議にて検討、昨年度より規約を変更した事項である為、現状といってもコロナ禍での運用であり、今暫く様子を見る必要あり。
- ・連盟未加盟のチームや加盟脱退チームに、「加盟方法を見直したことで選択肢が増え、各チームのニーズに合った加盟ができるようになった」ということを周知する必要あり。
- ・N加盟を済ませていないと全国・近畿予選会への出場ができないという条件設定は予選会に出場するチーム数が減少傾向にある中でハードルが高い。
- ・市町村としての加盟を促進していく意味からも市町村連盟単位での加盟について新設するなどの方策の検討

（2）本連盟主催大会への参加チーム数の減少傾向について

- ・本連盟の主催大会については、大きく2つのカテゴリー（①全国・近畿フェスティバル予選会の運営。②独自大会の開催運営と普及活動）である。①について、N加盟前提では今後もチーム数の増加は見込めず、結果として毎年同じチームによる予選会にならざるを得ない。出場後のN加盟も認めていく方向も要検討。さらに市町村連盟との共催で市町村予選会の代表チームも参加を認めていくのも一案。②については、今後、本連盟の進むべき方向と認識。様々な参加形態とニーズの把握に努めながら参加チームの増加を図っていく。他府県チームの参加や小学生チームの参加大会非常に良いアイデア。市町村連盟との共催も考えていく必要あり。

（3）本連盟主催大会の在り方について

- ・カテゴリー分けを行い、審判等を連盟役員がヘルプする初心者でも参加出来る大会の検討
- ・市長村連盟等の団体と共催
- ・大会の小規模頻回開催（Ex：登録チームの活動体育館にて開催等）
- ・大会運営上、ある程度の規模を持った公営体育館の借用が前提となるが使用料の問題が絡んでおり、参加費は収支を考えて設定しなくてはならない現状はやむなし。公営体育館に代わる施設確保は厳しい現状はあるものの、大学や高等学校等の施設借用も検討

（4）府内市町村のソフトバレーボール団体（連盟・協会）との連携について

- ・各市町村連盟推薦チームの予選会出場枠の設定。府内を数ブロックに分け、ブロック大会を市町村連盟と共催。各ブロック上位チームで決勝大会を開催。府連登録チームを、各市町村連盟主催大会に推薦。各市町村と府連の相互推薦の実施

・ 連盟のある市町村に対して積極的な情報提供、大会参加依頼

(5) ソフトバレーボール愛好者に対する本連盟の魅力づくり方策について

・ 小学校の体育部会に働きかけ、先生方の指導者育成に努め、小学生でも楽しく出来るソフトバレーの提案

・ 更なる市町村への調査からニーズ把握

・ 愛好者が気軽に見られる（府内チーム紹介・他府県チーム活動紹介、練習プランや授業での指導案などの掲載）魅力あるホームページづくり、フェイスブック利活用

5. まとめ

これまでの協議概要について報告したが、各項目についてより具体化されたものにする必要ありと考える。併せて、各都道府県連盟の中にはMRS導入後も加盟チーム数の維持や増加をさせている連盟があり当該連盟にも調査等を実施し参考としたい。

以上のことから2022年度も継続協議、理事会にて報告していく。